

みんな
始めよう

脱炭素生活 eco

千葉県議会議員 伊藤とし子

CO₂などの温室効果ガスが地球の平均気温を上昇させ、世界的規模で異変が起きています。スウェーデンのグレタさんを始め、多くの若者たちが、気候変動に対する抗議の声を上げ始めました。未来への責任として、「脱炭素社会」を実現するためのアクションを、今、できることから取り進めていきませんか？

CO₂26で日本は「化石賞」を受賞

産業革命以降、温室効果ガスの排出量が急激に増え、地球の平均気温は1.1℃上昇しました。2015年のパリ協定では、今世紀末までに平均気温上昇を1.5℃に抑えるという目標が掲げられました。そのためには、2050年までに世界のCO₂排出量を実質ゼロ（カーボンニュートラル）にし、2030年までに2010年比で約45%削減することが必要です。しかし、各国とも目標達成には程遠く、近年異常気象がますます顕著になりました。昨年はアメリカ北西部を熱波が襲い、カナダでは49.6℃を記録。ドイツやベルギーでの洪水や、ギリシャの山火事など大規模災害が続いています。2030年目標に向けて、いっそうの削減努力をしなければならぬ状況にも関わらず、11月に英国で開催された国連の気候変動会議COP26では、アメリカなど各国の利害関係がからみ、後退した内容になりました。日本は「石炭火力発電を2030年代に廃止」「2040年までに新車販売は電気自動車などゼロエミッション車にする」という重要声明に署名を拒否。NGOが温

暖化対策に消極的だった国に与える不名誉な「化石賞」を、2年連続で受賞しました。

昨年4月、菅前首相が2030年までに温室効果ガス46%削減（2013年比）するとし、これまでの目標を7割以上も引き上げると宣言しましたが、掛け声だけと言われても仕方がありません。

千葉県の本気度が試される

千葉県でも昨年3月に「2050年二酸化炭素排出実質ゼロ宣言」はしましたが、2016年策定の千葉県地球温暖化対策実行計画では実現が不可能なため、2023年春までに実行計画を修正する予定です。しかし、これまでも公共施設の新築、改修時の太陽光発電等の再生可能エネルギー（以下、再エネ）設置率がとても低く、国任せの姿勢が強いことから、今後県の本気度が試されると言えます。

東京都では市区町村ごとのCO₂排出量を公表しています。実態把握をすることで、自治体が省エネの削減目標を定め、再エネを推進しなければならぬと、自覚を促していくことになり

ます。千葉県でもぜひ市町村別CO₂排出量の算定・公表を行って、脱炭素

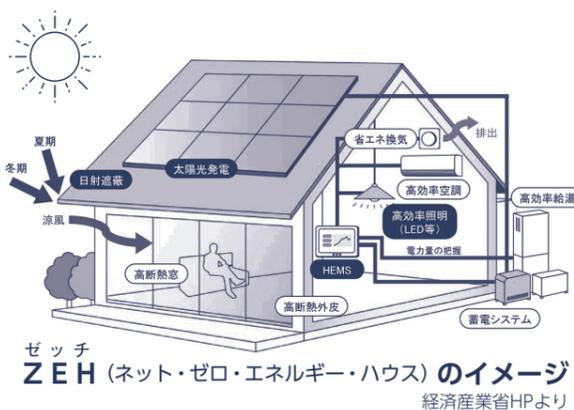
社会に取り組む機運を高めて欲しいものです。

省エネハウスの勧め

家庭の省エネ対策が大きく進むのは、

- ①家電製品の更新 ②自動車の買換え
- ③新築・建替えの時期です。照明のLED化、エアコンや冷蔵庫の省エネ機器への転換はすでに進んでいます。自動車もほとんど省エネ車が普及してきました。しかし、建物の寿命は30年、50年もあるので、2050年までに新築、建替えの機会は1度しかありません。

国は高断熱と再エネ、高効率設備を組み合わせたZEH（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）を推奨しています。さらに鳥取県や長野県等ではヨーロッパ並み高断熱・高気密住宅の普及に努めています。冬季でも家中が温かく保たれるので、居間と浴室の温度差



新年のごあいさつ

市民ネットワーク千葉県共同代表 野田市議会議員 小室美枝子

コロナ感染症防止のために自粛した約2年間を経て、今年はどうなるのでしょうか？市民ネットワーク千葉県は、PCR検査をいつでもどこでも無料で受けられる体制や、自宅療養ではなく入院できるような病床確保の実現に向けて、早い段階で提案してきました。今年も様々な知見や情報を活用し、コロナ感染症に対応した発信をしていきます。また、今年7月は参議院選挙です。昨年の衆議院選挙は、期待を大きく裏切る結果となりました。もし参議院選挙で改憲派議員が3分の2以上になってしまえば、改憲の動きは大きく加速してしまいます。暮らしを守ってきたのは憲法です。その憲法を守るための選挙と言っても過言ではなく、そのためには憲法を守る候補者の応援に力を入れていきます。今年から来年にかけて地方議会選挙が続きます。国政の劣化を嘆くばかりでなく、市民の声をより届けやすい地方議会選挙で民主主義を構築していくために、地域政党として議席確保に全力で臨みます。

千葉県は省エネ住宅が遅れており、既存住宅への「窓の断熱改修」や「太陽光発電設置」など、旧来の対策しかありません。本格的な高断熱・高気密住宅を普及させるためには、千葉県独自の「省エネ健康住宅」の推奨基準を設け、業者と県民に積極的にアピールしていくことが重要です。

自治体間の連携 世田谷区の取り組み

世田谷区では、地方で作られた再生電力を区内で積極的に取り入れています。2016年の群馬県川場村の木質バイオマス発電を皮切りに、青森県弘前市の太陽光発電、長野県企業局の水力発電、新潟県十日町市の地熱発電、津南町の小水力発電と連携・協力協定を結んできました。十日町市の発電した電力は区立世田谷中学校と区民約80世帯に供給され、長野県企業局の電力は区内の37保育所、7児童館、8幼稚園に供給されています。また、発電所見学ツアーを実施して区民と現地の交流につなげています。

脱炭素生活スタート

千葉県では「ちばエコスタイル」として、環境にやさしいライフスタイルを提唱しています。ごみを減量することも、フードロスをおくことも、地産地消もCO₂削減です。マイボトル、マイカップ推進、レジ袋削減。身近なところから脱炭素生活は始められます。まずは自分がどれくらいCO₂を出しているか、測ってみませんか。

我が家も測ってみよう！

CO ₂ 排出量換算式	
電気	kWh × 0.36kg
ガス	m ³ × 2.1kg
灯油	ℓ × 2.5kg
ガソリン	ℓ × 2.3kg
水道	m ³ × 0.58kg

千葉県HPより

びっくり 県政だより



伊藤とし子
佐倉市・酒々井町選出
県議会議員

HPVワクチン接種勧奨再開で 新たな被害者のおそれが

11月26日、厚生労働省はHPV（子宮頸がん）ワクチンの積極的勧奨の再開を決定。2013年6月から中断していた接種勧奨通知が、今年4月から対象者に届きます。積極的勧奨の中止の理由となった副作用は、ハンマーで殴られるような頭痛、ナイフで削られるような全身の痛み、感覚障害（光過敏、音過敏、嗅覚障害）、急に脱力して動

月経異常、睡眠障害など、様々な症状が一人の患者に重なって出るのが特徴です。重篤な場合、寝たきりや、介護が必要となったり、本人も家族も大変な生活を送っています。治療法は確立していないうえ、協力医療機関も機能していません。専門的な治療を行っている医療機関は全国でもわずか、遠い所まで入院しなければならず、経済的な負担も重くのしかかっています。副反応認定もぐくわすかなうえ、被害救済保障も不十分です。被害者たちは10年近く副作用に苦しめられ、進学を断念し、就職もま

けなくなる、筋力低下、不随意運動、歩行障害、重度の倦怠感、集中力低下、簡単な計算ができない等の学習障害、母親が分からなくなるほどの記憶障害、発熱、

まならず、不安な生活を送っています。何も解決しないのに、接種者が増えれば被害が再び増加することは確実です。なぜHPVワクチン勧奨再開が決定したのでしょうか。ワクチン在庫一掃で再開とは!! 国民的合意が取れないと、8年間勧奨再開は免れていました。メーカーのMSD社は、8年間もワクチンの接種勧奨が中止されていることに業を煮やし、「10月の勧奨再開に向け緊密に協力し準備してきたのに、このままだとワクチンが期限切れで順次廃棄処分せざるを得ない」と厚生労働省に抗議。「他の医薬品やコロナワクチン供給にも影響する可能性がある」と半ば脅しです。厚生労働省の審議会では、10月勧奨再開に向けた議論は全くされていませんでした。水面下で「緊密に協力」準備を進めてきたとしたら問題です。利権がらみのHPVワクチン接種勧奨再開への不当な圧力は、認められません。被害の深刻さを伝えるため、12月県議会に意見書を提出しました。

市民ネットワーク千葉県

2022
1/29
土
13:30
START

第28回 定期総会開催のお知らせ

総会は各地域ネット選出の代議員が出席して行われます。会員はオブザーバーとして出席することができます。会場は千葉市文化センターを予定していますが、社会状況によりオンラインでの開催となることもあります。

寄稿

国政でも実現したい「生活者の政治」

衆議院議員 大河原まさこ

突然の障がい乗り越えて衆院選で再選を果たした、東京生活者ネット出身の大河原さんに寄稿していただきました。

2022年の年明けに皆さまはどんな抱負を抱かれましたか？ 私は人生の再起動の一年にしたいと考えています。

ローカルパーティー・東京生活者ネットワークの都議会議員時代の経験が、私の政治の原点です。「一言から始まる政治参加」「水道の水にも味噌汁の中にも政治がある」「政治は生活をよくする道具」といった言葉が、いまだ生き生きと私の中にあります。国会議員になってからも、生活者ネットワークで培ったことを基本に活動してきました。



私は、昨年3月脳出血を患い障がい者となりました。半年のリハビリを経て左手足に麻痺の残る車椅子での退院となりましたが、直後に迎えた総選挙で、幸いにも東京ブロック比例で2期目の当選をすることができました。障がい者、しかも高齢者である私は、当事者の課題を政策として研ぎ澄ましていきたいと考えています。

私に残された人生を、私の困りごとだけでなく、もっと困っている人のために使っていきたい、その原点が生活者の政治にあると何度も確信しました。

市民ネットワーク千葉県の皆さんには、これまでたくさん励まされ、共に歩んできました。これからも、同じ目線で政治を語り合える仲間として活動させて頂き、「共に生きる社会」を一緒に創っていきたいです。

県立高校改革推進プラン パブコメ実施中 市民意見で変えたい 県立高校のカタチ

「県立学校改革推進プラン」(2012年策定)では、不登校等を経験した生徒が学び直せる高校「地域連携アクティブスクール」の設置や、統廃合・コースの再編などが行われました。現在は2022年度からの県立高校改革推進プラン策定にむけた懇談会が開かれています。傍聴してみても「生徒を社会に役立つ人材として育てる前提でいいのか」と感じました。生徒が個人として尊重され、目標を持って学ぶことが結果として社会の役に立つというなら分かりますが、大人に都合のよい人材をつくらうという考えでは困ります。また、日本語に習熟していなくても学べる高校も必要です。

新プランに対する市民意見募集では、個人に合わせた学びが確保されるよう、意見を出しましょう。
千葉市議会議員 岩崎明子

市民ネットワーク千葉県 元気ファンド

今年度は「コロナ禍で起っている諸問題に対し、支援活動などをする団体」に1団体上限20万円として、総額88万円の助成を決定しました。団体へのヒアリングや運営に関する話し合いもすべてオンラインでおこない、11月11日の公開審査会も初のオンラインで開催しました。コロナ禍だから必要とされる活動、人と人とのつながりが大事だと感じる各団体のプレゼンは、審査委員にも参加者にも伝わるものでした。助成を受けた団体の来年の報告が楽しみです。

- ❖ 子育て支援ステーションニッセ (千葉市中央区)
こどもカフェの絵本やおもちゃの購入費 20万円
- ❖ しっぽのきもち (千葉市稲毛区)
いのちの教育啓発活動の活動費補助 20万円
- ❖ マチナカ菜園 (千葉市若葉区)
空き地や高齢者の手入れのできない庭を借りて菜園 8万円
- ❖ 特定非営利法人フードバンクふなばし (船橋市)
食のセーフティネット事業・フードバンク事業の運営 ... 20万円
- ❖ 木更津波岡こども食堂 (木更津市)
食材の保管とお弁当用容器など 20万円

2021年助成団体決定

オンライン上映会 『食の安全を守る人々』を観て

子どもたちを健康に育てるためにはどうすればいいのか

この映画は、元農林水産大臣の山田正彦さんがプロデュースし、丹念な国内外の取材を重ねてつくられたものです。映像からは、食をめぐる恐ろしい現状が余すところなく伝わってきました。

モンサント社(現バイエル社)の除草剤グリホサート(遺伝子組み換え作物とセットになっている)が引き起こす健康被害はすさまじく、がん、アレルギー、精神・神経障害の原因となっていることが当事者の証言によって明らかにされています。ラットを使った実験では、外見からもわかるような全身の腫瘍が発生していて、思わず身震いしました。このグリホサートを主成分とするラウンドアップが、日本では当たり前のようにホームセンターなどで売られているのは大問題です。

一方、こうした現状に対して行動を起こす勇気ある人々の存在が希望を与えてくれています。アメリカでは、モンサントを訴える裁判が次々に起き、勝利を勝ち取っているそうです。韓国では、オーガニックの食材による無償の学校給食が広がっています。この千葉県でも、いすみ市が地元の有機米を100%給食に取り入れている様子が紹介されました。私たちも、このような動きに積極的に繋がっていきたいと思いました。

市民ネットワーク・ふなばし 麻生修子

各ネット連絡先	
市民ネットワークのど	☎04-7123-6981
市民ネットワークかわ	☎080-7628-7737
市民ネットワークふなばし	☎047-426-8321
さくら市民ネットワーク	☎043-462-0618
よつかいどう市民ネットワーク	☎043-304-3823
きさらづ市民ネットワーク	☎0438-36-0677
市民ネットワークちば	☎043-379-4958
市民ネットワークみま	☎043-278-5005
市民ネットワークわかば	☎043-284-2339
市民ネットワーク中央	☎043-379-4958
市民ネットワークいなげ	☎043-379-4958
市民ネットワーク花見川	☎043-379-4958
市民ネットワークみどり	☎043-379-4958